

## 単元の評価規準表

< 本単元のねらい >

伴って変わる2つの数量について、それらの関係を表や式に表して、問題解決に生かすとともに、数量の関係の見方や調べ方についての理解を深める。

単元の評価規準	時	評価場面（方法）	主な評価の観点	努力を要する状況の児童への手だて
<p><b>【算数への関心・意欲・態度】</b> 伴って変わる2つの数量について、その変わり方に関心を持ち、調べようとする。</p> <p><b>【数学的な考え方】</b> 伴って変わる2つの数量の関係を表す表からきまりを考えることができる。 2つの数量の関係を、<math>\square</math>などを用いた式に表して数量の関係を考えることができる。</p>	1・2	・表から2つの数量の規則性を見つける場面 (ノート・発言)	<p>関 伴って変わる2つの数量の変化に関心をもち、どのようなきまりがあるか進んで調べようとする。</p> <p>考 表を横に見たり縦に見たりして、変化の規則性に気づき、対応のきまりを見つけることができる。</p>	<p>・正方形の色板とおはじきを準備し、操作しながら対応する数を見つけられるようにする。</p> <p>・途中までの表から、次の数を予想させることで、数の変化に着目させる。</p>
<p><b>【数量や図形についての表現・処理】</b> 伴って変わる2つの数量の関係を、<math>\square</math>などを用いた式で表すことができる。 <math>\square</math>などを用いた式で表された2つの数量の関係を問題解決に生かすことができる。</p>	3	・変化のきまりを式に表し、問題を解決する場面 (ノート・発言)	<p>表 対応の規則性に着目して、<math>\square</math>とを使った式に表すことができる。</p> <p>表 <math>\square</math>と<math>\square</math>で表された式を使って、テーブルの数が分かっている場合のいずれの数を求めることができる。</p>	<p>・テーブルの数が1増えたときの増えたいすの部分の色分けし、テーブルが1増えるといすはいくつ増えるのかを意識させる。</p> <p>・実際の操作で求めたいすの数と、テーブルの数を式に当てはめて計算で求めたいすの数が一致することを確認させる。</p>
<p><b>【数量や図形についての知識・理解】</b> 伴って変わる2つの数量について、表に表したり、式に表したりするなど、数量の関係の見方や調べ方を理解している。</p>	4	・条件を変えて、伴って変わる2つの数量の関係を調べる場面 (ノート・発言)	<p>考 2つの数量の関係を<math>\square</math>と<math>\square</math>を使った式に表し、様々な場合の2つの数量の関係を考えることができる。</p> <p>知 伴って変わる2つの数量について、数量の関係の見方や調べ方を理解している。</p>	<p>・図に表し、テーブルが1つ増えるといすはいくつ増えるのかを意識させる。</p> <p>・対応する数を見つける、表にする、対応のきまりを見つけるという手順を想起させる。</p>